

**2017 年度**

# **活動報告及び決算報告書**



**一般社団法人 日本カトリック信徒宣教者会**

## 目次

<b>1. 2017年度の動きと成果（概要）</b>	4
<b>2. 各国活動</b>	6
(1) カンボジア	6
I プノンペン市ステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす家族のための生活向上支援	6
II プルサート州コンポンルアン水上村 生活向上支援	19
III その他(JLMMカンボジアとしての活動)	26
(2) 東ティモール	27
I プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業	27
II 健康に関する住民へのサービス及び知識・情報提供事業	30
III プライマリ・ヘルスケアを目的としたコミュニティ事業	32
IV 地域医療行政との連携・協力事業	33
V 人材の育成・研修事業	33
<b>3. 調査・調整活動</b>	34
(1) カンボジア	34
(2) 東ティモール	34
<b>4. 研修</b>	34
<b>5. 派遣</b>	37
<b>6. 派遣候補者の募集と選考</b>	37
<b>7. 団体連携・協力</b>	38
(1) 東ティモール医療友の会(AFMET)の運営協力	38
(2) カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)の運営協力	38
(3) カリタスジャパンの活動への協力	38
(4) 学校連携・協力	38
(5) NGO連携・協力	38
<b>8. ゴスペル</b>	39
<b>9. 海外ボランティア制度</b>	39
<b>10. 広報</b>	40
(1) ミッション(ニュースレター)発行 他	40

(2)広告掲載等.....	41
(3)チラシ配布 .....	41
(4)新聞・雑誌記事掲載 .....	42
<b>11. 報告会・説明会・講演 .....</b>	<b>42</b>
<b>12. 主催イベント .....</b>	<b>43</b>
<b>13. バザー・イベント等への参加・企画協力 .....</b>	<b>43</b>
<b>14. ファンドレイジング .....</b>	<b>44</b>
<b>15. スタディツアー .....</b>	<b>45</b>
<b>16. 会議 .....</b>	<b>46</b>
(1)総会.....	46
(2)理事会 .....	46
(3)団体名称検討ワーキンググループ .....	47
<b>17. 理事・顧問司教 .....</b>	<b>47</b>
<b>18. 加盟団体等 .....</b>	<b>48</b>

# 2017年度 日本カトリック信徒宣教者会 活動報告

## 1. 2017年度の動きと成果（概要）

### 派遣地における活動

カンボジアのプノンペン市では、子ども達のための識字・栄養教育、母親たちのための栄養・保健・住環境セミナー、収入創出プログラム、託児所の運営などの活動を継続実施した。味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムによる3年間の「プノンペン市貧困地域におけるコミュニティヘルスワーカー(CHW)の養成と家庭の栄養改善」の最終年度となり、プロジェクトの評価を参加型手法で実施した。コミュニティヘルスワーカーの意欲向上と収入創出のために、新たにコーヒードリップパックの生産に着手し、商品開発とマーケティングに進展が見られた。また、母親のニーズに対応するため、託児所の増築を開始した。

コンポンルアン水上村ではバッタンバン教区とともに保健衛生、栄養改善、識字教育、浄水プログラムなどを継続した。

東ティモールでは特定非営利活動法人東ティモール医療友の会(AFMET)に派遣され、プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業を中心に保健プログラムを実施した。味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受け、対象地域の母親に栄養失調児減少を目的とした「栄養と食に関する知識向上プログラム」を実施した。3年間のプロジェクトの最終年度となり、活動評価を実施した。また、派遣者の任期終了に伴い、1999年より継続してきた派遣が今年度末をもって一時終了することになった。

### 派遣候補者募集と研修、派遣

2名の派遣候補者が研修を受け、1名がカンボジアに派遣された。

近年は研修が実施されても派遣が無いというケースもあり、2016年度は研修を実施したが派遣はなく、2013年度以来4年ぶりの派遣が実現した。

### 新研修所の整備

2003年から研修所として使用させていただいていたコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会調布修道院改修に伴い調布研修所を開鎖し、礼拝会喜多見修道院内に新たに喜多見研修所を設置した。2008年度研修から喜多見研修所を使用することとなった。

### スタディツアーリポート（継続と新規学校企画）

恒例の上智福岡高等学校スタディツアーリポート、一般公募のスタディツアーリポート（夏期と春期の2回）に加え、新た

に清泉女子大学ベトナムボランティアスタディツアーレポートを実施した。また、スタディツアーレポートの企画にあたり、旅行会社との連携により募集や手配、安全面における充実を図った。

### **活動紹介とラチャナ販売（教会に向けた広報の拡充）**

JLMM の活動広報の拡充のため、昨年に引き続き各地のカトリック教会における「活動紹介とラチャナ販売」を企画・実施した。ミサ後に短い活動紹介とハンディクラフトの販売を組み合わせて実施することにより、多くの方々に関心を持っていただくことができた。東京、横浜、大阪の3教区で実施した。

### **団体名称の検討**

懸案事項である「日本カトリック信徒宣教者会」という名称について、理事会が設置した「JLMM 団体名称検討ワーキンググループ」において継続的に検討した。その結果を受け、当会創立者との相談を定期的に行つた。

### **カリタスジャパンとの連携（災害発生時の支援システム構築協力）**

カリタスジャパンから要請を受け、今後起こりうる大災害発災時にカトリック教会が被災者支援システムを迅速に構築できるよう、支援マニュアル作成のための編集作業に協力した。

### **連携・協力関係の拡充**

今年度新たに ILBS(国際福祉協会)からの助成を受け、カンボジア・プノンペンにおける屋台貸出プロジェクトの屋台の新調や備品の整備を実施することができた。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2018年3月31日現在の派遣国と派遣者

カンボジア…3名、東ティモール…1名

計 2ヶ国 4名

2018年3月31日現在の正会員数 10名

2018年3月31日現在の賛助会員数 2,454(個人・団体)

内訳

個人… 1,179、教会… 333、修道会… 614、学校… 185、その他… 143

## 2. 各国活動

### (1) カンボジア

1992年4月より内戦後の復興に取り組むカンボジア人、帰還難民の支援をきっかけに信徒宣教者の派遣が開始された。バッタンバン省にて児童養護施設におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト製作による女性の自立支援、スヴァイリエン省にて試験農場、コンポンスプー省では幼稚園支援など、カンボジア現地NGOを通してのコミュニティ開発支援を行ってきた。

1996年6月14日カンボジア政府にJLMM カンボジアとして国際NGO登録を行った。

1998年1月から、カリタス・カンボジアとの協働によりプノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001年12月よりバッタンバン知牧区内プルサート省コンポンルアンの水上村における住民との関わりを開始した。

また、2007年6月より、シェムリアップ州クナ・トゥメイにおいてカトリック教会が地域の子ども達に向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始した。

さらに、2008年7月より、バンテイメエンチャイ州タオム村でカトリック教会が地域の子ども達に向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始。その後、シェムリアップ教会の会計管理等の活動支援も開始。

2002年度より浅野美幸(横浜教区)、2013年度に井手司(福岡教区)、2017年度に洞江有実子(仙台教区)を派遣した。

プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野が担当し、トシレサップ湖上の村コンポンルアンの活動を井手が担当した。

### I プノンペン市ステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

#### 1. 対象地域と地域概要

##### プノンペン市ステンミエンチャイ地区ルッセイ村

ルッセイ村には、ゴミ集積場でゴミの中からリサイクルが可能な有価物を拾い集め、リサイクル業者に売り、生計を立てている家族が多く住んでいる。住民の多くは、以前地方で農業を営んでいた人たちだが、グローバリゼーションの影響などにより、家族を養うための十分な食料や生活物資を購入するための現金を得ることが出来ずに都会に出てきた人たちである。

村では、生活環境不良のため栄養不良や皮膚疾患が多くみられる。また、高利貸しへの借金返済にも苦しんでいる。子どもは家族を助ける労働力とみなされ、親は子どもの教育にあまり熱心ではない。子ども達も家族を助けたい思いからゴミ集積場で働いている。子ども達は、小学校に入学できても、基礎的生活習慣や能力不足により落第や退学する子どもが多くいるのが現状である。

2009年7月にステンミエンチャイのゴミ集積場は、ゴミの収容範囲を超えたため閉鎖され、プノンペン市の全てのゴミはダンコー地区にできた新ゴミ集積場に集め捨てられている。住民たちは以前から住んでいるルッセイ村に留まり、そこから毎日ルモー(バイクで牽引する乗り合いの搬送車)で新ゴミ集積所へ通勤している。住民たちの移動がないため、JLMM ではステンミエンチャイ・ゴミ集積場の閉鎖後も、活動を継続している。

2017年度は、次のとおり事業を実施した。事業実施に関する活動資金の一部は、大阪大司教区「カンボジアの日」、ドイツ「Die Sternsinger」、NPO法人「芝の会」(創設者、故粕谷甲一神父)、味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラム、海外邦人宣教者活動援助後援会(JOMAS)、

国際福祉協会(ILBS)からの支援を受けた。

## 2. 活動

### 1) 「子どもの家」活動

貧困や家庭の事情で小学校に通学できない子どもや落第、退学が多い対象地域での就学前の子ども達への幼稚教育、衛生教育、識字教育を実施した。基礎的社会能力や知的能力を向上させる体験の場を月曜日から金曜日の午前中、能力別に分かれた3クラスで週5日8時半から11時まで運営した。

生徒数は當時70～90名。2017年度は21名の子ども達が小学校に入学した。

#### a) 「大きな子どもの家」

対象年齢: クメール語子音の読み書き、1から10の数字が分かる6歳から12歳の児童20人。

衛生教育、クメール文字の読み書き、足し算や引き算、工作、ぬり絵、お絵かきなどを学ぶ。

#### b) 「小さな子どもの家」

対象年齢: クメール語子音の読み書きができない児童30人。

衛生教育、識字教育、工作、塗り絵、お絵かき、歌などを学ぶ

#### c) 「小さな小さな子どもの家」

対象年齢: 3歳から5歳の幼児25人。

パズルやお絵かきなど遊びが中心。



小さな小さな家の子どもたち



小さな家の子どもたち

### ① スタッフと先生やアシスタントとの定期ミーティング

「子どもの家」が小学校入学への架け橋として、充実した教育を実施できるよう、スタッフと先生やアシスタントと毎月末に定期的なミーティングを行った。

#### 成果

先生が抱えている問題を分かち合うことによって、アシスタントとスタッフが協力しあうようになった。

#### 課題

限られた時間なので予定や課題の周知が中心となった。子ども達の情操を豊かに育むための教材作りと指導力の向上を目指していきたい。

## ② 家庭訪問

教育の大切さを保護者に理解してもらうため、7歳以上で小学校に入学していない子どもの家庭を訪問し、小学校進学の重要性を伝えた。また、小学校入学の手続きの周知を図った。

### 成果

家庭訪問をすることによって子どもたちの家庭環境が理解できた。

### 課題

家庭の事情で子どもを学校に行かせたがらない親もいる。「子どもの家」が人生最後の教育機関になってしまう子どもがいるので、読み書きや足し算ができるように指導していきたい。

## ③ 栄養プログラム及び身体測定

栄養失調や発育不全の子どもたちの栄養改善を行うため、味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムからの助成により、肉・魚・卵・野菜など栄養バランスを大切にしながら栄養価の高い食事を子どもたちに提供した。また子どもたちの栄養補給として手作りの豆乳を学びにきた子どもたち全員に毎日配布した。野菜が嫌いな子ども達のために、授業でも野菜の身体における働きや食の大切さを子どもたちに指導した。さらに、その成果を測定出来るよう身体測定を実施した。



給食をおかわりする子どもたち



豆乳が大好きな子どもたち

### 成果

子どもたちの野菜嫌いがどのくらい減少したかを調べるために3日間のモニタリングを実施した結果、94%の子どもたちが野菜を食べていたことが判明した。「子どもの家」での栄養教育に加え、家庭でも栄養セミナーで学んだ母親たちが子どもに野菜を食べさせるように指導しているため、今まで野菜を残していた子どもが食べるようになってきている。

### 課題

家庭では、肉や卵を毎日摂ることができない子どもが多い。

## ④ 図書館の利用

図書館の部屋を使いやすいうように整備し、授業のカリキュラムに図書館での読書の時間を設けた。

## 成果

たくさんの本を手に取れるような環境を作ったため、子どもたちの本に接する時間が増えた。

## 課題

本を玩具変わりに遊んでしまう子どももいるので、本の読み聞かせの時間も増やしていきたい。



図書館で読書



友だちと本の読み聞かせ

## 2) 医療サービスと家庭訪問

2017年度は49件の緊急援助を行った。

親が病気や怪我で就労できない家庭にお米や卵などの支給(14件)、病院までの交通費(5件)、治療費や薬代等(25件)、バイク修理(2件)、家屋修理補助(3件)、を行った。

家庭には医薬品が無いため、怪我をした住民に対して、傷の悪化を予防する簡単な傷の手当てをし、あわせて手当ての方法を指導した。

## 成果

緊急時に食料や治療費を援助することができ、住民たちは高利貸しからお金を借りず高い利子の返済に苦しまずに済んだ。

## 課題

カンボジアは医療保険がないため、病気になったら高額な医療費を払わなければならない。衛生的な生活をおくることで病気を予防できるので、住民たちの保健衛生の意識向上に努めていきたい。

## 3) 屋台プロジェクト

今年度は国際福祉協会(ILBS)の支援を受け、屋台、パラソル、ユニフォーム、出店道具などを新しく購入した。

### ① ロッティ

ゴミ集積場での有価物収拾で生計を立てている人たちに屋台の貸し出しを行う「屋台プロジェクト」を継続し、クレープ菓子「ロッティ」の販売を行った。プノンペン市内や学校周辺などで販売。研修を受けた販売員に屋台を貸し出すほか、材料を低価格で卸し、出店道具、自転車、屋台の修理等の支援も行った。

2018年3月末現在4名が屋台プロジェクトに参加し、生計を立てている。うち3名は自身の収益からバイクを購入し屋台を牽引し「ロッティ」を販売している。

## 成果

「ロッティ」の知名度が上がり、今まで売れ行きのよくなかった暑い時期や学校が休みの日も売れるようになり、収入を増やすことができた。

## 課題

「ロッティ」の生地をよく練る作業を怠ったため、生地の味の低下がみられる。品質管理を徹底していきたい。

### ② ハッピーアイス

秋田県で「ババヘラアイス」販売を行う進藤冷菓の技術指導を得て、カンボジアの原材料を使ったアイスの製造・販売を2013年2月に開始し、今年度も継続した。研修を受けた販売員に屋台を貸し出すほか、アイスを低価格で卸し、出店道具、自転車、屋台の修理等の支援も行った。

販売場所を拡大し、より多くの就労者を増やすため、移動用トラックを導入し、販売員をプノンペンに送迎した。2017年3月末現在8名が小学校前などで「ハッピーアイス」を販売している。



ハッピーアイス



子どもたちが大好きなロッティ

## 成果

ゴミ集積場で働いていた母親たちにアイス販売の仕事を提供することができ、借金を返済することができた。

## 課題

学校が休みの日はアイスが売れず収入にならない。子どもたちの興味を引く付加価値を付け、安定的な現金収入を確保できるよう工夫が必要である。

### 4) プノンペン市郊外・貧困地域における女性の生活向上プログラム

ドイツ「Die Sternsinger」並びに味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受け、地域の母親を対象とした包括プログラムを今年度も継続した。家庭を守る母親が「保健衛生」、「住環境」、「栄養」に関して知識を深め、実践することにより、家庭から地域全体の生活向上を図ることを目的としている。

### ① 母親ミーティング

対象となる地域の母親を集め、プログラムの実施経緯や内容説明を行うとともに、母親が抱える問題や課題などを話し合うミーティングを行った。

日付	参加数	内容
2月23日	71人	*教育の大切さ、小学校への入学手続きの仕方 *JLMM「子どもの家」活動について *「コミュニティヘルスワーカーによる栄養改善セミナー」について *「麻薬の恐ろしさ」について(ステンミエンチャイ地区警察官)
3月9日	102人	*「栄養改善セミナー」成果発表会を開催 *「栄養改善セミナー」3年間の活動について *コミュニティヘルスワーカー代表の紹介、CHWの体験報告2名 *栄養改善セミナーに参加した母親2名の感想 *栄養に関するクイズ大会。 *味の素カンボジア藤勝社長来訪



母親ミーティング



CHW の活動紹介

### 成果

コミュニティヘルスワーカー(CHW)の役割やCHW養成プログラム活動内容について地域住民に情報共有できた。

### 課題

母親たちの抱えている問題や課題に適した講師を招いていきたい。また話し合いや相談の場を設けるなどして、母親自ら問題を解決できるように導いていきたい。

## ② お母さんセミナー

母親を対象とした家庭の生活環境改善に必要な「保健衛生」・「住環境」・「栄養改善」のセミナーを継続し下記の内容で実施した。文字の読めない母親にも分かりやすい教材を用意。スタッフ3名でお母さんセミナーを実施した。

また、セミナーを実施するために必要な人材の育成、及び研修に参加した。

### (1) 栄養改善セミナー

味の素ファンデーションからの助成を受け、第2フェーズとなる「コミュニティヘルスワーカーの養成と家庭の栄養改善」が新たに始まり、2015年度から3年間をかけコミュニティヘルスワーカー

(CHW)を養成している。今年度は養成されたCHW18名が、住民たちの住居前で少人数のグループを対象に、10分から15分の栄養改善セミナーを実施した。また、CHW18名は栄養改善セミナー開始前後に、栄養改善担当スタッフから、その日のテーマの要点や教え方の注意点についての指導を受け、更なる知識を得ることができた。

またセミナーの一環として、料理の実践教室も「母親センター」で実施し、家庭でも入手可能で安価な食材を使い、栄養価の高いバランスの取れた食事を家族に提供できるよう指導した。前年度の料理教室は参加者を CHW に限定したが、母親たちの希望で今年度は誰でも参加できるように変更した。

回	日付	対象地区	参加人数	内容
第1回	5月11日、12日	グループ1	27人	「3食品群の食品と働き」
	5月17日、18日、19日	グループ2	36人	
	5月23日26日	グループ3	30人	
第2回	5月29日	グループ1	14人	料理の実践教室 「鳥と空芯菜炒め」
	5月30日	グループ2	13人	
	5月31日	グループ3	17人	
第3回	6月9日、12日、13日	グループ1	26人	「バランスの良い食事」
	6月14日、15日、16日	グループ2	27人	
	6月20日、21日、22日	グループ3	37人	
第4回	6月22日	グループ1	20人	料理の実践教室 「鳥と野菜の蒸し煮」
	6月26日	グループ2	11人	
	6月27日	グループ3	13人	
第5回	7月5日、6日、7日	グループ1	30人	「朝食の大切さ」
	7月17日、19日	グループ2	39人	
	7月20日、21日	グループ3	37人	
第6回	7月25日	グループ1	19人	料理の実践教室 「焼きそば」
	7月26日	グループ2	22人	
	7月27日	グループ3	21人	
第7回	8月14日、16日	グループ1	31人	「妊娠期の栄養」
	8月17日、18日	グループ2	47人	
	8月23日、24日	グループ3	59人	
第8回	8月28日	グループ1	21人	料理の実践教室 「豚肉と野菜のオイスター炒め」
	8月29日	グループ2	18人	
	8月30日	グループ3	17人	
第9回	9月4日、5日、6日	グループ1	30人	「授乳期の栄養」
	9月7日、8日、11日	グループ2	33人	
	9月12日、13日、14日	グループ3	57人	
第10回	9月25日	グループ1	16人	料理の実践教室 「肉野菜スープ」
	9月26日	グループ2	24人	
	9月27日	グループ3	18人	

第11回	10月5日、6日 10月11日、12日 10月17日、18日、19日	グループ1 グループ2 グループ3	40人 52人 57人	「乳幼児の栄養0～6ヶ月」
第12回	10月25日 10月26日 10月27日	グループ1 グループ2 グループ3	17人 14人 20人	料理の実践教室 「豚の足のお粥」
第13回	11月15日、17日 11月20日、21日、22日 11月23日、27日	グループ1 グループ2 グループ3	32人 41人 53人	「幼児の栄養6ヶ月～2歳」
第14回	11月28日 11月29日 11月30日	グループ1 グループ2 グループ3	14人 12人 29人	料理の実践教室 「鳥の唐揚げ」
第15回	12月5日、7日、8日 12月12日、13日、18日 12月20日、21日、22日	グループ1 グループ2 グループ3	42人 56人 36人	「よく噉むことの大切さ」
第16回	12月27日 12月28日 12月29日	グループ1 グループ2 グループ3	18人 13人 24人	料理の実践教室 「野菜炒め」
第17回	1月・2月エンドライン調査	グループ1 グループ2 グループ3	50人 82人 44人	アンケート調査



栄養改善セミナー



栄養改善セミナー

## (2) コミュニティヘルスワーカーの育成・研修

セミナーを実施するために必要な人材の育成を目的にコミュニティヘルスワーカーが次の研修に参加した。

日付	団体	内容
5月25日	シェア=国際保健協力市民の会	小グループでの教え方
6月28日	シェア=国際保健協力市民の会	幼児の身体測定評価

### (3) 保健衛生セミナー

「母親センター」にて保健衛生に関するセミナーを月に1回15時から16時まで実施した。参加者が多いため対象地域を3グループに分け、日にちを変えてグループごとにセミナーを実施した。

回数	日付	対象地区	参加人数	内容
第1回	7月4日	グループ1	17人	手洗いと家の掃除復習
	7月7日	グループ2	17人	
	7月18日	グループ3	18人	
第2回	8月8日	グループ1	25人	安全な水
	8月15日	グループ2	11人	
	8月22日	グループ3	29人	
第3回	11月7日	グループ1	24人	予防接種と安全な水復習
	11月13日	グループ2	11人	
	11月14日	グループ3	20人	

\* セミナー担当スタッフが盲腸のため、5月と6月、また産休のため12月から2月のセミナーを休講した。



保健衛生セミナー



保健衛生セミナー

### (4) 住環境セミナー

対象地域各所で週に1回の割合で住民たちが住んでいる住居前で、少人数に10分から15分くらいの短いセミナーを実施した。住民たちが住んでいる住居に出向くことによって、家事や育児に忙しい母親たちが参加することができた。

回数	日付	対象地区	参加人数	内容
第1回	6月22日、29日	グループ1	59人	台所の衛生
	7月5日、20日、28日	グループ2	91人	
第2回	8月3日、9日、30日	グループ3	57人	衛生的な水

\*今年度後期は盲腸や産休で休みを取った他のスタッフの仕事で忙しかったため、住環境セミナーを休講した。

## 成果

家庭での衛生環境に対する意識や家族の健康に対する意識が向上した母親たちは、野菜を多く摂取するようになったり、部屋の掃除習慣が身につくなど行動変容がみられた。

## 課題

多くの知識を得た母親たちが、学んだことをさらに家庭で実践できるように、フォローアップしていくたい。



住環境セミナー



住環境セミナー

## (5) 人材の育成・研修

セミナー実施に必要な人材の育成のために、スタッフたちが次の研修に参加した。

日付	団体	内容
2月28日		ライルスキルトレーニング
3月1日 2日	NPO 法人 SUSU(かものはしプロジェクト)	「よいファシリテーターとは?」 「自己管理力-怒り」
3月28日 29日 30日	NPO 法人 SUSU(かものはしプロジェクト)	ライルスキルトレーニング 「誰もが学べるように」 「職業倫理-品質管理」

## (6) 5歳未満の子どもの身体測定を3ヶ月毎に実施

「栄養改善セミナー」の一環として対象地域の5歳未満の子どもの身体測定を3ヶ月毎に実施した。栄養不足の場合は母親に幼児の健康状態や治療方法、食事の与え方などのカウンセリングを実施しアドバイスをした。

## 成果

3ヶ月毎に子どもの身体測定をしているため、母親たちの子どもの健康への関心が高まった。

## 課題

母親たちの子どもの健康への関心が高まっているのが感じられるが、経済的理由から十分なたんぱく質を摂取できない家族も多い。栄養価の高い大豆やおからなどの知識を広めていきたい。



3ヶ月毎の身体測定



母親へのカウンセリング

#### (7) 野菜菜園

コミュニティヘルスワーカーのインセンティブとなり、地域の栄養改善に貢献できる作物を開発すべく小規模菜園を母親センター屋上にて今年度も試みた。無農薬のオクラ、空芯菜、サラダ菜(カンボジア産)が収穫できた。屋上での栽培になるため、土を多く必要とするトマト、キュウリ、ナスなど果菜類は収穫が難しく断念した。オクラと空芯菜を中心に栽培を継続したが、屋上の床面は構造上強固に作られておらず、水漏れしてしまい断念した。

##### 成果

無農薬の空芯菜やオクラが豊かに実り、収穫を楽しむことができた。

##### 課題

現在母親センター隣に建設中の新託児所の屋上の床面を強固にし、来年からまた再トライしていくたい。

#### (8) 地域住民に向けた栄養に関する情報掲示版

各グループ3ヶ所に設置した地域住民に向けた情報掲示板に栄養に関する情報を、定期的に張り替え常に新しい情報を伝えた。「妊娠授乳期に必要な栄養」「手洗いの大切さ」や母親セミナーに関するお知らせ等を親しみやすい絵や写真を多用し、明るい色を使用したポスターで掲示した。

##### 成果

就労のため「母親セミナー」や「母親ミーティング」に参加できなかった母親たちにも情報共有できるようになった。

##### 課題

字が読めない人たちが多い地域なので、絵や写真を多用した解りやすいポスターを作り、心掛けていきたい。

#### (9) コミュニティヘルスワーカー(CHW)のインセンティブ開発

CHWの活動を支える経済的基盤を構築し、活動を継続させるために、コーヒードリップパックの商品化を試みた。活動訪問者に向けて、またプノンペンやシェムリアップのお土産屋で販売を開始した。「子どもの家」の生徒が描いた母親の絵をドリップパックのパッケージに使用した。これからカンボ

ジア国内での販売場所を拡大していくとともに、日本での販売も試みていきたい。

### 成果

カンボジア産のコーヒーを使ったドリップパックはまだ市場で販売されていなかったため、カンボジア土産として観光客に好評である。

### 課題

販売場所を拡大していくとともに、品質管理を徹底していかたい。



イオンモールで販売されている JLMM コーヒードリップパック



母親たちに仕事を提供

### (10) 家庭の栄養改善評価の実施

2015年4月より味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの助成金を受けて、「コミュニティヘルスワーカーの養成と家庭の栄養改善」を実施してきたが、2018年3月末に3年間のプロジェクトを終了するにあたり、外部から専門家を招き、現地スタッフと共にこれまでの活動を振り返り、活動の成果と課題を明らかにした。

また、「子どもの家」の子どもたちは週に1回、栄養について授業で学んできた。子どもたちの理解度を調べるために、簡単なテストを実施した。さらに知識を得た子どもたちの行動変容を調べるために、3日間、給食の時間に野菜を多く含んだ献立で子どもたちの野菜嫌いについてのモニタリングを実施した。

### 成果

地域住民を対象としたベースライン(基礎)調査とエンドライン(終了時)調査から、住民たちの栄養・衛生に関する意識や態度は、プロジェクト開始前に比べ、改善していることが分かった。またコミュニティヘルスワーカー(CHW)が栄養や衛生の知識を学ぶこと、そしてその知識を周囲の人々に伝えることに喜びを見出していることが分かった。

### 課題

当初考えていた以上に CHW の能力強化が難しいこと、特に非識字のためにセミナーの準備ができるない人もいることが理解できた。CHW の中で読み書きができ能力のある人に絞り、さらに研修を続け、CHW が自らセミナーを実施できるように指導していかたい。

### ③ 託児所

「母親センター」の2階を使い、3歳～5歳児の30名を朝6時30分から18時30分まで受け入れた。子どもたちは、午前中は隣接する「子どもの家」で学び、給食後、「母親センター」において昼寝、水浴び、給食、授業、おやつ、遊びをして1日を過ごす。

授業では、基本的なクメール語の読み、歌、絵本の読み聞かせや塗り絵・パズルなど遊びをとりいれた時間を子ども達に提供した。先生1名、アシスタント3名が交代で指導を行った。

#### 成果

子どもを預かることで母親が安心して働きにいけるようになった。また子どもたちは石鹼を使った手洗いや歯磨などの衛生的な生活習慣を身につけた。

#### 課題

子どもたちの情操を豊かにしていくための教材作りと指導の技術・質の向上を目指していきたい。



託児所の子どもたち



おやつを食べる託児所の子どもたち

#### (1) 託児所の増築

NPO法人「芝の会」、海外邦人宣教者活動援助後援会(JOMAS)及びケビン神父(the Diocese of Maitland-Newcastle, NSW, Australia)からの支援を受け、母親センターの隣の土地を購入し1月に託児所の建設を開始した。10月完成予定。

#### 4) その他

- a) 月1回開催される「レイミッショナリーの集い」に出席
- b) カトリックNGO会議に出席(6月、1月)
- c) カンボジアで活動する修道会、カトリックNGOとの連携
- d) プノンペン教区主催の行事、ミサに出席
- e) 公立小学校、教育省、NGOなど地域機関との連携
- f) 「子どもの家」クメール正月ゲーム大会(4/7)、「子どもの家」プチュンバン祭(9/15)、「子どもの家」クリスマス会(12/22)実施
- g) 「子どもの家」にて子どもたちの健康診断実施(Edgewood College Henry Predolin School of Nursing and American Family Childrens Hospital、5/29及び1/3)
- h) 「子どもの家」の子どもたちとプノンペン市内の公園に遠足(6/23)

- j) 味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムからの助成金、事業報告書・会計報告提出(4月、10月)
- j) ドイツ「Die Sternsinger」助成金申請、及び子どもの家、託児所、母親セミナーにおける運用と決算報告(8月、2月)
- k) 大阪教区への助成金申請、及び運用と決算報告(4月)
- l) NPO法人「芝の会」の助成金運用と決算報告(5月)
- m) カンボジア外務省、教育省への月間活動報告、決算報告(4月、7月、10月、1月)
- n) 税務科への活動報告と決算報告(11月)
- o) JLMM カンボジアスタッフ定期ミーティング
- p) 35組のべ266名のステンミエンチャイ訪問・見学の受け入れ

## II プルサート州コンポンルアン水上村 生活向上支援

### 1. 対象地域と地域概要

#### プルサート州コンポンルアン水上村

水上村コンポンルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖上に位置している。この村では1, 100世帯、5, 000人の人々が船の家で生活しており、約60%がベトナム人である。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。住民は生活用水として湖の水をそのまま利用しているが、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て湖に廃棄しているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はカンボジア語が話せず、国籍を持たないといった理由で公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。医療機関へかかることができないために簡単な病気でも死に至るケースが多い。子どもは言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの多くの問題を抱えている。

2001年からJLMM カンボジアと住民の協力のもと、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。

### 2. 活動

#### 1) 保健衛生プログラム

##### ① 水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続実施した。湿疹用石鹼、虱用石鹼を使用し家でも使えるように一つ500リエル(約10円)で販売した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも継続的に行った。水浴びプログラムに参加する子ども達は平均して1回に10人程度である。

#### **成果**

水浴びプログラムに通ってくる子ども達の湿疹や虱などの症状は、年々減少している。

識字教室の先生に加え、識字教室の卒業生もこの活動を手伝ってくれるようになっており、協力の輪が広がっている。また定期的に歯磨き指導、手洗い指導等も実施している。

#### **課題**

現在学校に通って来ている子ども達の年齢層が上がり、10歳以上の子どもが半数を占めている。そのため、10歳以上の子ども達への水浴びが行えない。先生達との話し合いの中で、自分自身で体を

洗う事ができない小さな子ども達だけに水浴びを行う事が決まった。結果、水浴びを行う子どもが少なくなってしまった。女子には虱対策のため、髪の毛だけでも洗えるようにしていきたい。また12月から2月にかけては、日中も寒くて水浴びを行う事が出来なかった。水浴びが出来ない時は、歯磨き指導や手洗い指導を強化していきたい。



手洗い指導の様子



歯磨き指導の様子

## ② 病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援、病院や病人受け入れ施設までの付き添い、軽症のケースに対しての健康相談や、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。交通費支援、病人訪問などに関しては、水上村教会の病人支援グループと協働している。またスペインやシンガポールからの医師による村人への無料診断を行う事により、普段病院に行けない村人への診察を行う事が出来た。

関わった病人は、糖尿病、百日咳、胃の検査・成長痛による膝の痛み、心臓病、喘息、足の怪我、下痢、気管支炎など様々であった。病人支援は55名、58件ケースであった。

### 成果

支援をすることで安心して病院に行ってもらうことができた。水上村の住人にどのような病気が多いか把握することが出来た。

### 課題

利用者が教会関係者に偏ってきてるので、村の住人も利用できるように教会が地域一般の方々を対象に病人支援をしている事を地域に広くアピールするとともに、協力者も募っていきたい。



火傷の女の子を病院へ案内



スペイン人医師による無料診断

### ③ ホームケアプログラム

主に病人支援で関わった病人(退院した病人など)の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置、栄養剤の支援を実施。また本人や家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行った。

#### 成果

病院に行く時だけの支援ではなく、家庭での継続的な支援が可能となった。

病気が完治し利用者の元気な姿を見ることが出来た。

#### 課題

日々移動を繰り返す水上村では病人の家の位置を把握することが難しく、訪問できないこともあった。今後は病人との関係を密にし、訪問を続けられるようにしたい。

### 2) 母子保健に関する活動

月に1回午前9時から11時までの2時間、妊婦や乳幼児へのケア(コンポンルアン保健センターで受けられるサービスと同様のサービス)のため、同センターの産婦人科医に依頼し予防接種及び妊婦への教育ワークショップを行った。母乳不足の場合は粉ミルクを支援。

また、患者がクリニックを訪れやすくするために、カンボジア語からベトナム語への通訳者を雇用した。より多くの人々に利用してもらうため、予防接種及び妊婦への教育ワークショップ実施前に村全体で告知を行った。

#### 成果

クメール語(カンボジア語)に不安を抱くベトナム人住民も安心して予防接種を受けることが出来た。

教育ワークショップによって妊娠期間、出産に対する不安を軽減することが出来た。

妊婦同士、お母さん同士のコミュニケーションの場を提供することが出来た。

#### 課題

教育ワークショップは個人指導が主なものになっている。グループワークショップの再開を目指したい。



母子保健プログラム ワークショップ



予防接種を受ける乳児

### 3) 識字教育プログラム

教会が運営する識字教室「マリアーノ学校」では、ベトナム人の子ども達にカンボジア語とベトナム語の勉強を無料で教えていた。JLMM カンボジアは、その学校のカリキュラム準備、教材の支援などを行った。

2018年3月末日現在、カンボジア人先生2名、ベトナム人先生1名の計3名がカンボジア語の授業を行っている。

授業は午前3クラス。また午後ベトナム人の先生1名がベトナム語の授業を行った。通学する生徒数は1年平均して午前70名、午後40名程度である。2005年から継続している通学船による子どもの送迎も実施した。先生とスタッフを含めたミーティングを行い、行事の打ち合わせやカリキュラムの準備や指導力の向上に努めた。今年度も年中行事(卒業旅行、クリスマス会等)を先生、生徒と共に準備し、行うことが出来た。

#### 成果

毎月行われる先生たちとの会議に、水上教会担当司祭も参加でき、司祭と先生との意見交換ができる。子どもの出席状況をより細かく把握し、親との関係性を深める事ができており、通学船の利用料の徴収も漏れなく行っている。

#### 課題

クメール語の先生が2017年10月に2人辞めた後は、先生の補充が出来ていない。現在2名の先生で3クラスを担当している為、授業がスムーズに行えない。新しい先生を探しているが給料面で折り合がつかず、見つかっていない。



クメール語教室の様子



ベトナム語教室の様子

#### 4) 栄養改善プログラム

2005年2月より始まった栄養改善プログラムを今年度も継続して実施。週一回の水浴びプログラムの前、栄養価の高い食事(お粥、豆乳、バナナの甘味)を提供し合わせて栄養指導を行った。参加人数は1回平均70名であった。

##### 成果

栄養価の高い食事を提供できたとともに、子ども達にとって週に一度の楽しみを提供することができた。

##### 課題

栄養指導に関しては識字教室の先生に一任していたが、結果、内容が単調になってしまった。説明しやすいように何種類か教材を用意するなどしていきたい。



栄養価の高い お粥



美味しく食べる子ども達

#### 5) 奨学金支援(里親制度)

2017年度は日本の里親の方からの支援により大学生1名の里子が奨学金を受けた。里子の大学生はバッタンバン市内のバッタンバン教区が運営する寮で生活しながら学校へ通っている

##### 成果

里子とは、継続的に訪問、連絡を取り合うことで、状況を把握することができている。

##### 課題

ソパール神父の運営する学生寮は、新入生の募集を中止している。里子は今年大学卒業予定で、

卒業後は奨学金の支援が終了するため、コンポンルアン水上村での奨学金支援を今後どのように行うのか同神父とも協議していきたい。

#### 6) 公立小学校との連携

マリアーノ学校の卒業生が小学校に入学した後も、勉学を順調に続けることができるよう、公立小学校との連携を図った。通学船による子どもたちの公立小学校への送迎は2012年5月まで実施していたが、通学船の運転手が確保できないため、保留となっている。子ども達は親から交通費をもらい、一般の交通船に乗って小学校に通学している。

##### 成果

通学船がなくても家族の出費により子ども達の数人は通学することができた。

##### 課題

通学のための船賃を出すことのできない貧困家庭の子ども達が、通学を継続できるしくみを考えていく必要がある。マリアーノ学校の卒業生が公立小学校の授業についていけず、中途退学する生徒があるので、マリアーノ学校卒業生へのフォローが必要である。

#### 7) 净水プロジェクト

2007年4月より湖の水を浄化して住民に安価で販売するプロジェクトを実施。2010年度から運営管理を現地教会に委託した。JLMM カンボジアは、その運営に協力している。

##### 成果

安価で安全な浄水を提供する事によって水上村の住民の衛生状態が向上した。

##### 課題

年々村人による需要が増え、乾季には供給が追いつかないほどになっている。供給量増加に向けた取り組みが必要である。また、浄水装置が設置され10年が経過したため、修理の必要な場所が増えている。教会のメンバーとも話し合い、浄水装置を維持できるようにしていきたい。



浄水装置



村人が水を買いにくる様子

#### 8) 青年活動

教会の青年たちが組織する青年会の活動に協力した。具体的な活動は、ミサ奉仕、子ども達の歌の練習、病人訪問、お葬式への参加など。その活動にかかる費用の一部を支援した。

### 成果

青年活動だけではなく、クリスマスや復活祭など教会や JLMM が行う諸行事にも協力が得られた。またイエズス会のブラザーが子ども達へ要理教育を行い、子ども達のミサへの積極的な参加に繋がった。

### 課題

活動が単発で終わることが多い。今後は持続していける活動を考えていきたい。

陸で仕事をしたり、結婚したり、ベトナムに帰るなど水上村を離れていく青年がいるが、その時々の親睦を深め、青年育成につながる活動に向けて、青年たちと関わっていきたい。



ミサ前の歌の練習



要理教育

### 9) その他

- a) カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携
- b) 「カンボジア福祉基金藤沢」の運用
- c) 水上公園の管理
- d) コンポンルアン教会担当司祭及び教会リーダーグループとの定期ミーティング
- e) 公立小学校、教育省、警察、漁業局などをはじめとする地域機関との連携
- f) 日本や他の外国からなどの訪問者の受け入れ(31組のべ 216名)
- g) 各教会・個人へ向けた毎月の活動・会計報告
- h) 日本からの支援物資の配給
- i) 海外宣教者を支援する会へ支援申請(教会改修)
- j) シンガポールからの医師、医学生の受け入れ(12月)
- k) スペインからの医師の受け入れ(3月)
- l) スペイン人大学生による4日間のサマーキャンプの実施(8月)
- m) バッタンバン教区パストラルミーティングに参加(11月)
- n) JLMM カンボジアスタッフ定期的ミーティング
- o) スタディツアーの受け入れ

### III その他(JLMMカンボジアとしての活動)

#### 1) スタディツアー・ボランティア・活動地見学

次の日程で JLMM 関連カンボジア・スタディツアーの受け入れを行った。

2017年7月29日～8月5日 上智福岡高等学校・スタディツアー

2017年8月22日～30日 JLMM 夏のカンボジアツアー

2018年2月24日～3月3日 JLMM 春のカンボジアツアー

#### 2) 日本の修道会との連帯

「ショファイユの幼きイエズス修道会カンボジア共同体」、及びオ一村で活動をする漆原恭子さんと活動や事務に関するミーティングを実施。査証手続きをサポートした。

#### 3) ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバンの支援

女性自立に向けた活動を行う現地 NGO「ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバン」の商品を JLMM プノンペン事務所にて販売。バザー用、オーダー受注、東京事務局への発送作業等を行った。

#### 4) 東京事務局との連絡調整

2017年7月9日～14日 味の素ファンデーションからの助成、「コミュニティヘルスワーカーの養成と家庭の栄養改善」の中間評価及びコミュニティヘルスワーカーのためのインセンティブ開発

2017年12月12日～18日 コミュニティヘルスワーカーのためのカンボジア産コーヒーを使用したドリップパックの開発とマーケティング支援

#### 5) 黙想会・祈りの集い

2017年5月4日～8日 シェムリアップ Metta Karuna Centre において黙想会を実施した。

また、月に一度、祈りの集い及び活動報告を行った。

#### 6) 一時帰国

一年間の活動を終え、次のとおり一時帰国した。

浅野美幸 2017年9月12日～10月15日

井手司 2017年5月25日～6月28日

#### 7) 一時帰国報告会

一時帰国の時期に合わせ、各地で報告会を実施した。

(「11. 報告会・説明会・講演」で後述)

浅野美幸

2017年10月1日 横浜教区カトリック菊名教会

2017年10月5日 味の素株式会社本社にて、子どもの家の栄養改善、家庭における栄養改

### 善の活動報告

- 2017年10月11日 芝浦工業大学にて活動報告(大宮キャンパス)  
2017年10月12日 NPO 法人「芝の会」にて活動報告(旗の台)

### 井手司

- 2017年5月27日・28日 福岡教区カトリック久留米教会  
2017年6月6日 広島県福山曉の星女子中学、高校(宗教科)  
2017年6月8日 イエスのカリタス修道女会本部  
2017年6月10日 幼きイエス会  
2017年6月11日 横浜教区カトリック藤沢教会  
2017年6月18日 カトリック原町教会  
2017年6月23日 カトリック大分教会  
2017年6月25日 カトリック宮崎教会

### 8) その他

支援者・関係者へのクリスマスカード送付

### (2) 東ティモール

#### I プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業

##### 1. 5歳未満の子どもの身体測定、栄養セミナー、調理セミナー

SISCa(母子健診療サービス)が実施されていない集落、村の診療所から遠い集落をイリオマール準郡CHC栄養プログラム担当者、PSF、看護師／助産師と共に訪問し、5歳未満の子どもの身長・体重・上腕の測定を行った。去年実施した集落へはフォローアップとして再度訪問し、子どもの発育状態を確認した。

身体測定だけではなく、参加者に向けて栄養セミナー・調理セミナーを実施し、母子手帳の重要性、栄養失調の原因、栄養失調が身体に与える影響などを、教本を使用して指導した。

また、栄養のある食事について母親に理解してもらう目的で、モリンガなど地元で簡単に手に入る食材を使用した食事作りを指導し、メニューを配布。家庭でも栄養のある食事を作れるよう工夫した。

実施日:8月7~25日、9月8~18日、10月4~25日、12月11~22日(計 35回)

実施場所:6村15箇所

実施関係者:イリオマール準郡 CHC 栄養プログラム担当者1名、看護師1名、助産師1名、PSF5名、AFMET スタッフ3名

参加者:5歳未満の子ども、母親ほか

#### プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業 身体測定・栄養セミナー・調理セミナー 詳細

回数	集落名 (村名)	参加者		セミナー内容	実施日
		5歳未満の子ども	一般		
第1回	ヘイタリ (アイレバレ)	9名	14名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	8月7日
第2回	カイダブ	13名	17名	・身体測定	8月8日

	(イリオマール II)			・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	
第 3 回	ベトウマウコロン (イリオマール II)	10 名	18 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	8 月 8 日
第 4 回	バイタウ (イリオマール I)	9 名	16 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	8 月 10 日
第 5 回	ボイキラ (イリオマール I)	7 名	12 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	8 月 15 日
第 6 回	マアラファル (アイレベレ)	12 名	17 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	8 月 17 日
第 7 回	ワタオマール (フアト)	11 名	12 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	8 月 22 日
第 8 回	ラリミ (カエンリウ)	16 名	22 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	8 月 23 日
第 9 回	タタララリン (ティリロロ)	4 名	6 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性	8 月 24 日
第 10 回	エテワタ (ティリロロ)	12 名	15 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性	8 月 25 日
第 11 回	リヒナ (イリオマール I)	10 名	13 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	9 月 8 日
第 12 回	ティリロロ (ティリロロ)	33 名	27 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性	9 月 13 日
第 13 回	リウファルノ (カエンリウ)	5 名	6 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	9 月 15 日
第 14 回	ブブタウ (フアト)	20 名	24 名	・身体測定 ・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	9 月 18 日
第 15 回	ラリミ (カエンリウ)	8 名	23 名	・栄養失調の身体への影響 ・B 型肝炎予防接種	10 月 4 日
第 16 回	タタララリン (ティリロロ)	5 名	8 名	・栄養失調の原因	10 月 5 日
第 17 回	オソヒラ (イリオマール I)	6 名	13 名	・栄養素について	10 月 6 日
第 18 回	リヒナ (イリオマール II)	23 名	23 名	・栄養素について	10 月 9 日
第 19 回	カイダブ (イリオマール II)	3 名	10 名	・栄養素について	10 月 10 日
第 20 回	ベトウマウコロン (イリオマール II)	6 名	8 名	・栄養素について	10 月 12 日
第 21 回	ボイキラ (イリオマール I)	11 名	9 名	・栄養素について	10 月 16 日
第 22 回	ヘイタリ (アイレベレ)	9 名	8 名	・栄養素について	10 月 17 日
第 23 回	ブブタウ (フアト)	15 名	14 名	・栄養素について	10 月 18 日
第 24 回	ワタオマール (フアト)	9 名	10 名	・栄養素について	10 月 19 日

第 25 回	バイタウ (イリオマール I)	4 名	14 名	・栄養素について	10 月 23 日
第 26 回	エテワタ (ティリロロ)	5 名	5 名	・栄養失調について	10 月 25 日
第 27 回	ヘイタリ (アイレベレ)	6 名	10 名	・発育曲線の見方	12 月 11 日
第 28 回	カイダブ (イリオマール II)	10 名	16 名	・発育曲線の見方	12 月 12 日
第 29 回	ペトウマウコロン (イリオマール II)	10 名	14 名	・発育曲線の見方 ・マラリア予防	12 月 13 日
第 30 回	ワタオマール (フアト)	6 名	10 名	・発育曲線の見方	12 月 14 日
第 31 回	バイタウ (イリオマール I)	8 名	14 名	・発育曲線の見方 ・マラリア予防	12 月 18 日
第 32 回	ポイキラ (イリオマール I)	17 名	27 名	・発育曲線の見方	12 月 19 日
第 33 回	タタララリン (ティリロロ)	8 名	23 名	・栄養素について ・身体測定・調理セミナー	12 月 20 日
第 34 回	エテワタ (ティリロロ)	10 名	9 名	・栄養素について ・身体測定 ・調理セミナー	12 月 21 日
第 35 回	ラリミ (カエンリウ)	10 名	30 名	・母乳育児の重要性	12 月 22 日

## 2. 母親大会の実施

5歳未満の子どもの身体測定、栄養セミナー、調理セミナーと関連し、子どもの発育状態と AFMET プログラムへの参加率で母親を選出。2歳～5歳児を対象とした食事を作ってもらい、集落レベル、村レベルで母親大会を実施した。調理の前に持参した食材の栄養素、調理方法について発表した。村議会、AFMET スタッフ、CHC、味の素が評価シート(衛生面、栄養知識面、食材面など各項目に分かれている)を用いて採点。得点の高かったチームが1位となった。

### 集落レベル大会

実施日:2018年1月30日

場所:ティリロロ村

参加者:味の素ファンデーション2名、ティリロロ村村長、イリオマール CHC 長代理(医師)、集落長3名、PSF5名、大会参加の母親6名(ティリロロ村の各集落から2名ずつ参加)、一般住民約90名、AFMET スタッフ6名

### 村レベル大会

実施日:2018年2月22日

場所:アイレベレ村

参加者:CHC スタッフ&医療従事者5名、PSF8名、母親12名(イリオマール郡各村から2名ずつ参加)、村議会スタッフ4名、AFMET スタッフ3名、一般住民約120名

### 成果

・これまでの SISCa では体重と上腕の測定のみであったが、身長測定も実施し、PSF や母親たちが身

長測定にも慣れた。

- ・改訂された母子手帳は男女別の身長体重比、年齢体重比、身長体重比を記載しなければならない。他の県より早く PSF にトレーニングを実施し、実践したため、PSF たちが身長測定を行い、それをグラフに記載することができるようになった。
- ・他県ではまだ実践されていない身長測定をイリオマール準郡でいち早く現地に根付かせることができた。
- ・セミナー実施の際は教材やポスターを使用し、母親たちが理解しやすいよう工夫することができた。
- ・普段交流の少ない母親たちが集まり、情報交換の場を設けることができた。
- ・これまでのセミナーで学んだ知識を発表する母親大会では、多くの母親が3群(たんぱく質、炭水化物、ビタミン)の食品を食事に採り入れていた。

### 課題

- ・新しいことを学びたいという住民が減ってきてているように思う。情報提供する場をつくっても住民の参加がなかなか得られない。国が独立して15年が経ち、住民の生活や経済状況が変わっていることが原因と考えられる。セミナー内容を保健局のスタッフを交えて検討する必要がある。
- ・母親大会では、3群の食品を食事に採り入れる母親は多くいたが、食材が身体にどう影響するかについては更なる指導が必要だと考える。ビタミンについて理解している母親が多いが(妊娠した際にビタミンが身体によいと指導され、ビタミン剤を配布されるため)、たんぱく質と炭水化物についての理解が低かった。



PSF や母親も身長測定に慣れた



母親大会 食材の栄養素について発表する母親

## II 健康に関する住民へのサービス及び知識・情報提供事業

### 1. 重度栄養失調児の子どもの家庭訪問(母親個別相談)

重度栄養失調児とみられる子どもを抱えるお宅へ家庭訪問を行い、その母親に対し、個別に指導を行った。子どもの発育曲線の見方について直接的に指導し、栄養のある食事を提供するように促した。

実施日:2017年9月、11月(計23世帯)

方法:フリップチャート、子どもの発育曲線を使用して指導

場所:6村10集落

参加者:CHC 栄養プログラム担当者1名、AFMET スタッフ3名、栄養失調児25名とその母親

## 2. 家庭菜園セミナー

5歳未満児がおり、水場に近い家を訪問し、栄養状態を向上させる食材を確保する目的で、野菜の種を配布すると共に、家庭菜園の作り方、苗／種の植え方、オーガニック肥料の作り方を指導した。

また、イリオマール準郡で大豆を使った食品を生産したいと相談したところ、アイレベレ村村長が農民グループ Meti-asa を紹介してくださった。Meti-asa は11名のメンバー（詳細は下記）で、グループを形成し、自分たちで地を耕し、稻や野菜を育てて村で販売している。今年からこのグループと協同し、大豆食品生産に向けて始動することになった。

大豆を首都ディリで購入し育てたがうまくいかず、日本で大豆の種を購入し、育てた。しかし、収穫した種を植えても3回目には育たなくなってしまった。その後、何度かディリで大豆を購入し植えたものの、育つことはなく、大豆食品生産は難しくなった。Meti-asa が養殖地をつくっていたことから、稚魚の育成・養殖へと方法を変え、現在は220匹の稚魚を育てている。

実施日:8月、9月、10月、11月（計110世帯）

方法:野菜の種の配布、稚魚の配布、実地トレーニング

実施関係者:AFMET スタッフ 3名

参加者:5歳未満児の家庭、農民グループ Meti-asa メンバー11（女4、男7）名、アイレベレ村村長1名

配布した野菜の種:ナス、青菜、ニンジン、トマト、シソ科の野菜（バヤム）、空芯菜、インゲン豆



母親個別相談の様子



Meti-asa の養殖池と畑の様子

### 成果

- ・栄養失調児のいる家庭を訪問し、母親の不安に思っていることなどに直接的に答えることができた。
- ・子どもの発育曲線のグラフを見せ、子どもの健康状態がどうなっているか指導することができた。
- ・家庭菜園セミナーに参加した家庭では7種類の野菜が収穫でき、子どもの健康状態も良くなつたというコメントがあった。
- ・家庭菜園セミナーに参加した住民が、家庭菜園の準備の仕方、オーガニック肥料の作り方について理解した。
- ・家庭菜園セミナーに参加した住民が、収穫した野菜を食材として調理に使用するだけではなく、種を取ってさらに植え替えるなどの工夫がみられるようになった。多く取れた野菜は隣家へも配布し、近隣住民からも喜ばれたとコメントがあった。

- ・農民グループ Meti-asu と協同し、稚魚の養殖を開始することができた。今後、イリオマール準郡で魚が販売されるようになることが期待される。

#### 課題

- ・家庭訪問で母親に直接的に栄養について指導した際、「栄養のある食事を提供しなければいけないことは理解しているが、その経済力がない」との反応が多かった。家庭菜園セミナーに参加する旨伝えたが、野菜を育てることは疲れるのでしたくないと回答する家也多かった。
- ・苦労して作る栄養がある食事よりも、楽にお腹がいっぱいになる食事の方が魅力的であるという家庭も多い。
- ・家庭菜園セミナーで配布した野菜の何種類かは1度種を植えて収穫後、種を再度植えないといけない野菜も選択していたため、今後は収穫後も種を得られる野菜のみ選択したい。
- ・大豆がうまく育たなかつた。稚魚の育成へとシフトすることができたが、大豆食品生産はあきらめなければならなかつた。

### III プライマリ・ヘルスケアを目的としたコミュニティ事業

#### 1. 現地製品ココナツオイル生産支援プログラム

2015年度に組織した女性グループは主に農業局からの支援を受け、継続的にバージンココナツオイルとココナツオイルを使った傷薬(軟膏)の製造・販売を行っている。AFMET は継続してモニタリングを行い、フォローアップを実施している。

#### 成果

- ・グループメンバーが継続してバージンココナツオイルを販売し、収入となつてゐる。
- ・オイルを使用した新しい製品も継続して販売しており、売上も好調である。

#### 課題

- ・継続的にバージンココナツオイルを購入する顧客を見つける。
- ・掛売でオイルを購入する企業や団体が多く、売掛金の回収が難しい。
- ・メンバー一人ひとりが籠やバケツにオイルを入れて販売に行くため、一度に大量に運搬することが困難である。

#### 2. FINI 活動支援

2012年度にAFMET から独立し、政府登録を完了させた FINI は、商業産業環境省からの支援を受け、現在も意欲的に活動を継続している。AFMET は、現地代表が FINI 開催の会議に参加するなど、彼らのアドバイザー的存在として協力関係を継続している。

2017年度 AFMET がFINIとともに実施した会議数:5回

2017年度顧客数:24店舗(NGO、キオスク、ホテル、スーパー、マーケット含む)

#### 成果

- ・活動するメンバーの数は減ってしまったものの、首都ディリ、ロスパロスで意欲的に宣伝活動を行つており、顧客の数が少しづつ増えてきた。
- ・商業産業環境省から液体石鹼の製造を依頼された。現在試作を製造中である。

### 課題

- ・メンバー同士の仲たがい等が原因で今年は各種イベントへの参加が難しかった。AFMET も介入し、メンバー同士の関係性修復を行いたい。
- ・販売場所の賃料等に年間500ドルの経費を要している。FINI 自らの土地はあるが、家を建てる必要があり、その経費が必要。

## IV 地域医療行政との連携・協力事業

今年度も、保健、開発行政、他の NGO との連携のため各種会合に参加した。

- ・他機関主催ワーキンググループ、ワークショップ、イベント、会議への参加 6回
- ・主な連携機関 保健省(栄養課)、農業省(国産物農業広報課)、司法省(市民登録課)、商業環境産業省(住民グループ支援課)、県保健局(公衆衛生課、栄養課、母子保健課)、県農業局(国産物農業広報課)、イリオマール準郡 CHC、NGO フォーラム(FONGTIL)、県庁、JICA(国際協力機構)、NGO(ワールドビジョンジャパン、Child Fund、PARCIC、SHARE、ピースウィンズジャパン、地球のステージ、TID)

### 成果

- ・他機関との連携を深め、情報交換を行うことが出来た。
- ・NGO 同士の情報交換が頻回に行われるようになり、連携が深まった。

### 課題

- ・今後も視野を広げて多くの機関と協働していきたい。

## V 人材の育成・研修事業

### 1. 他団体(NGO)との協働

AFMET の活動の充実に向け、他 NGO と積極的に協働した。

#### (1) 視察等の受け入れ

- 栄光学園 教諭2名、学生3名 観察、FINI での石鹼つくり体験  
2017年8月30日
- 東ティモール図書館活動基金 中口尚子さん、イエズス会経営図書館支援者 太田睦さん  
2017年10月11日
- 味の素ファンデーション AIN プログラム事業観察  
2018年1月27日～2月1日

#### (2) AFMET と協働している主な NGO、国際機関

NGO フォーラム(FONGTIL)、Child Fund(東ティモール)、日本カトリック海外宣教者を支援する会(日本)、ピースウィンズジャパン(日本)、ワールドビジョンジャパン(日本)

・国際機関

UNICEF

・その他

ドンボスコフィロロ(東ティモール・サレジオ会)  
ドンボスコケリカイ(東ティモール・サレジオ会)  
イエズス会(東ティモール)  
聖母訪問会メハラ修道院(日本)

### (3) 政府関係機関

政府保健省(MoH)  
政府農業省(MoA)  
政府商業産業環境省(MCI)  
政府司法省(MJ)  
ラウテン県県庁(Administrasaun)  
ラウテン県保健局(DHS)  
ラウテン県農業局(MAP)  
日本大使館  
独立行政法人 国際協力機構(JICA)

## 3. 調査・調整活動

### (1) カンボジア

JLMM カンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動支援、コンポンルアンでの活動の視察、調整をスタディツアー等も兼ねて行った。

2017年 7月5日～ 7月15日	辻明美	味の素事業支援
2017年 7月9日～ 7月15日	漆原比呂志	味の素事業支援
2017年 12月12日～ 12月18日	漆原比呂志、辻明美	味の素事業支援

### (2) 東ティモール

派遣先との調整、活動の調整などを行った。

2018年1月23日～2月2日	金山重之	味の素事業視察、活動調整
-----------------	------	--------------

## 4. 研修

2017年度は、2名で研修を実施した。

宮崎房子(福岡教区・帯山教会)、洞江有実子(仙台教区・松木町教会)の研修を2017年4月18日から11月11日まで行った。

研修所は、コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院内にある友愛の家を引き続き借用した。

オリエンテーション	2017年4月18日(火)
-----------	---------------

通常授業	2017年4月19日(水)～10月25日(水)
------	-------------------------

研修内容は次のとおり。

	講師（敬称略）	研修名	
	浜崎眞実神父(当会理事)	聖書学	通年水曜日
	Sr. 杉原法子(援助マリア修道会)	カテケージス	通年月曜日
	漆原比呂志	JLMM の生き方	通年火曜日
	Sr.高橋睦子(幼きイエス会)	神に親しむ	通年水曜日
	Sr. Lessie Gregory(フランシスカン・チャペルセンター勤務)	英語	通年火曜日
	Sr.小野恭世(イエズス孝女会)	共同体作り	月1回木曜日
	大森志帆	教会史	通年月曜日
	本田まり	生命倫理	前期1回、後期1回
	Fr.阿部仲麻呂	使徒信条	9月27日
	井手司	一時帰国者の話	6月13日
	今井慶	JLMM OB の話	6月20日
	町田春海	JLMM OG の話	9月12日

また、研修所等における学習だけではなく、長期海外研修など体験を交えた研修を行った。  
体験学習は次のとおり

	期間	研修名	内容
	2017年5月22日から 2017年5月24日	川崎体験	労働問題、滞日在日外国人が抱える問題等について、神奈川シティユニオンやふれあい館等において学ぶ
	2017年6月9日	荒川体験	江戸時代の浅草・吉原、明治・大正時代の荒川・三河島、昭和・平成時代の山谷を通して、差別と貧困について考える。
	2017年6月29日から 2017年8月10日	長期海外研修	カンボジアに赴き、派遣者の活動地であるステンミエンチャイ地区、コンポンルアン水上村にてインターン研修を行い、派遣についての識別と準備期間とする。 エバリュエーション：8月21日（四ツ谷） 報告会：9月16日（六本木）
	2017年9月16日	長期海外研修報告会	長期海外研修の報告を行う

	2017年10月2日から 2017年10月8日	かなの家	「ラルシュ・かなの家」(静岡県)において、知的ハンディを持つ仲間と共に生活しながら、作業やかかわりの中で「ともに生きる」ことの大切さを学ぶ
	2017年11月2日から 2017年11月6日	ハンセン病施設研修	鹿児島 国立療養所 星塚敬愛園

こうした研修のほか、2回の默想、週末の活動等を通じ、自分を見つめ、ミッショナリーとして派遣されるための見極め、また準備期間とした。

中間、最終默想の期間、指導及び会場は以下のとおり

中間默想 期間:2017年8月22日～24日

指導者:シスター高橋睦子(幼きイエス会)

会場:レデンプトリスチン修道会 茅野修道院 (長野県茅野市)

最終默想 期間:2017年10月28日～30日

指導者:瀬戸高志神父(レデンプトール会)

会場:イエズス会無原罪聖母修道院(默想の家) (東京都練馬区上石神井)

また、将来派遣地において教会や他のNGOなどと連携し活動する経験につなげることや、日本での人のネットワークを深め支援者を増やすことなどから、例年どおりアポストラートスを行った。受け入れ先及び研修生は次のとおりである。

東京教区カトリック徳田教会(洞江)

研修実施に際し、研修スタッフミーティングを行った。

2017年5月24日、2018年3月7日

研修所の清掃を行った。

2017年11月22日 研修所大掃除/修道院でシスターと会食

研修所を提供しているコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会より、修道会の改築計画に伴い、2018年度以降は研修所としての利用ができなくなる旨通達があり、新たな研修所を探すことになった。

東京都世田谷区喜多見の礼拝会第2修道院の一部を研修所として提供いただくことになり、引っ越しを行った。

2017年9月12日 コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会管区長と面談

2017年10月25日 礼拝会管区長と面談 修道院内見学

2017年11月9日 礼拝会会計・契約担当者 打ち合わせ(六本木)

2017年11月20日 礼拝会会計・契約担当者 打ち合わせ(六本木)

2017年3月16日～18日 研修所 調布から喜多見へ引っ越し

研修の川崎体験でお世話になっている平間正子さんの韓国国家人権賞受賞祝賀会に事務局スタッフが参列した。

2018年2月17日 平間正子さん韓国国家人権賞を祝う会（川崎市産業振興会館）

2018年度研修のため、新たな講師依頼を行った。

2018年3月23日 西原廉太師（立教大学）

## 5. 派遣

研修を終了した1名の信徒宣教者の派遣を行った。

派遣者

洞江有実子(仙台教区・松木町教会) カンボジア 2018年1月10日派遣

派遣式(研修修了式)

洞江有実子の派遣式と宮崎房子の研修修了式を行った。

2017年11月11日(土) コングレガシオン・ド・ノートルダム 調布修道院

所属教区長への派遣挨拶

2017年11月27日(月) カトリック仙台教区 平賀徹夫司教

小教区での派遣挨拶

2017年 11月26日(日) カトリック松木町教会 派遣ミサと祝賀会

## 6. 派遣候補者の募集と選考

2018年度派遣に向けた派遣候補者の募集を2017年8月1日より開始した。

また、昨年度に引き続き応募者増と当会の活動の周知を行うため、派遣候補者募集説明会を実施した。JLMMの活動紹介並びに派遣候補者募集に関する説明や相談を行った。

選考には、2名の志願があったが、うち1名が病気のため選考に不参加、1名が2018年度派遣候補者となつた。

派遣候補者募集説明会

日時:2017年9月16日(土) 15時

会場:フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール（東京都港区六本木）

選考

日時:2017年12月2日(土)

会場:JLMM事務局(六本木)

## 7. 団体連携・協力

### (1) 東ティモール医療友の会(AFMET)の運営協力

特定非営利活動法人東ティモール医療友の会理事会(AFMET)に事務局職員金山重之と漆原比呂志を派遣。AFMET の運営に協力した。

AFMET 理事会	2017年4月26日、5月15 日、6月19日、7月18日、9月14日、 10月23日、11月21日、12月19日、2018年1月15日、2月1 5日
AFMET 臨時総会	2018年1月20日
イベント	2017年5月20日 東ティモールフェスタ2017(上智大学・四谷キャンパス)

### (2) カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)の運営協力

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援に向け、2011年4月24日に開設されたカトリック東京ボランティアセンター(CTVC)の活動を支援した。

### (3) カリタスジャパンの活動への協力

2011 年の東日本大震災、2016 年の熊本地震に際してカリタスジャパンの被災地緊急支援に JLMM 事務局が協力してきた経緯から、今後日本各地で起こりうる大災害において迅速に支援体制を構築するためのサポートを行った。カリタスジャパンが発行予定の「災害対応マニュアル」の編集会議に参加した。

2017年4月6日、4月28日、6月1日、7月 28 日、10 月 31 日、11 月 15 日、  
カリタスジャパン緊急支援に関するミーティング(カトリック中央協議会)

### (4) 学校連携・協力

横浜雙葉高等学校2年「総合学習の時間」のNGO訪問で生徒グループが来所し、生徒による国際協力プログラムの企画に協力した。

2017年12月21日

### (5) NGO 連携・協力

- JANIC の依頼を受け、カンボジアの NGO ネットワークである CCC-Cooperation Committee for Cambodia(カンボジア協力委員会)職員が来所し、NGO のアカウンタビリティについて話し合った。  
(2018年2月8日)
- JANIC 主催の「カンボジア NGO における NGO の政策環境課題」についてのミーティングに出席した。(2018年2月21日)

## 8. ゴスペル

派遣地での派遣者と現地の方々との「つながり」と同様、日本国内においても「つながり」をもち、連帯していくことを目指し、2007年度創立25周年記念式典に向け結成したゴスペルクワイアを再結成。継続して活動を行った。

指導に布施多真美さんを迎えて、月2~3回程度の練習を通じ、自分らしいゴスペルクワイアを目指した。

練習会場:六本木フランシスカン・チャペルセンター聖堂ほか

練習日: 2017年 4/6、4/27、5/11、5/18、6/15、6/29、7/13、7/27、8/10、8/24、9/7、

9/21、10/12、10/26、11/9、11/16、12/7、12/14

2018年 1/18、1/25、2/8、2/22、3/8、3/22

### コンサート/出演

- 1) 真生会館「音楽と祈りの集い」に出演

日時:2017年4月12日

会場:真生会館(東京・信濃町)

- 2) 被災地復興支援行事

日時:2017年8月26日

会場:宮城県亘理郡山元町 普門寺夏まつり

- 3) 被災地311追悼行事

日時:2018年3月11日

会場:宮城県亘理郡山元町



真生会館「音楽と祈りの集い」



宮城県山元町の311追悼行事に出演

## 9. 海外ボランティア制度

キリスト教信徒ではない、もしくは短い期間でも派遣を希望する方に向け、2012年度から新たな試みとして、フェローズ制度を設置し試行的に実施した。

2013年度からは名称を「海外ボランティア制度」に改め参加者を募集したが、希望者がなかったため実施しなかった。

## 10. 広報

### (1)ミッション(ニュースレター)発行 他

ミッションNo.177～182の計6号を以下のとおり発行した。

No.	発行日	部数	内容
No.177	2017年5月31日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"><li>・2017年度派遣候補者研修始まりました！</li><li>・カンボジアからの手紙(井手司)</li><li>・書き損じはがきご支援のお願い</li><li>・東ティモールからの手紙(深堀夢衣)</li><li>・「毎日のミサカバー」大好評販売中！</li><li>・カンボジア・スタディツアーカー参加者募集！</li></ul>
No.178	2017年7月31日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"><li>・カンボジアからの手紙(浅野美幸)</li><li>・書き損じはがきご支援のお願い</li><li>・東ティモールからの手紙(深堀夢衣)</li><li>・研修生の今</li><li>・紹介します！ともに働く仲間たち</li><li>・平和祈念募金ご協力のお願い</li><li>・「毎日のミサ」用カバー大好評販売中！</li></ul>
No.179	2017年9月30日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"><li>・カンボジアからの手紙(浅野美幸)</li><li>・研修生の今&amp;イベントのお知らせ</li><li>・東ティモールからの手紙(深堀夢衣)</li><li>・書き損じはがきご支援のお願い</li><li>・カンボジアからの手紙(井手司)</li><li>・「毎日のミサ」用カバー大好評販売中！</li><li>・2018年度派遣候補者募集のお知らせ</li></ul>
No.180	2017年12月11日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"><li>・2017年度研修修了式・派遣式開催</li><li>・紹介します！ともに働く仲間たち(東ティモール)</li><li>・カンボジアからの手紙(井手司)</li><li>・「毎日のミサ」用カバー大好評販売中！</li><li>・クリスマス献金ご協力のお願い</li></ul>
No.181	2018年2月20日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"><li>・カンボジアからの手紙(井手司)</li><li>・新派遣者カンボジアへ</li><li>・書き損じはがきご支援のお願い</li><li>・東ティモールからの手紙(深堀夢衣)</li><li>・コーヒープロジェクト始動！</li></ul>

			・「毎日のミサ」用カバー大好評販売中！
No.182	2018年3月31日	3,000 部	・カンボジアからの手紙(浅野美幸) ・東ティモールからの手紙(深堀夢衣) ・カンボジアからの手紙(洞江有実子) ・書き損じはがき ご支援のお願い ・「毎日のミサ」用カバー大好評販売中！

## (2)広告掲載等

カトリック新聞におおむね月1回、年24回広告を掲載した。

2017年

4月 2日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
4月 16日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
5月 21日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
6月 4日	2段5cm	夏のカンボジアスタディツアー
6月 18日	2段5cm	夏のカンボジアスタディツアー
7月 9日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
7月 23日	2段5cm	ともに生きる人 募集中！
7月 30日	2段5cm	ともに生きる人 募集中！
8月 20日	2段5cm	ともに生きる人 募集中！
8月 27日	2段5cm	ともに生きる人 募集中！
9月 17日	2段5cm	ともに生きる人 募集中！
9月 24日	3段1／2	ともに生きる人 募集中！(世界難民移住移動者の日)
10月 22日	2段5cm	ともに生きる人 募集中！
11月 19日	2段5cm	クリスマス募金
11月 26日	2段5cm	クリスマス募金
12月 17日	2段5cm	クリスマス募金

2018年

1月 28日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
2月 4日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
2月 12日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
2月 18日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
2月 25日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
3月 4日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
3月 18日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください

## (3)チラシ配布

### 1)広報チラシ作成配布

JLMM の広報、会員募集、募金を目的として郵便振替用紙付きカラー版チラシを作成し国内の教会へ配布した。

クリスマス募金 「今年も新たに1名の新派遣者が誕生しました!」 20,000部作成(2017年12月)

 <b>クリスマス</b>	 <b>派遣候補者募集</b>
---	--

### 2) 広報用リーフレット作成配布

JLMM 活動紹介リーフレット(カラー、A4版三つ折)を作製配布した。

作製部数 500部 2018年2月(2017年度版)

### 3) 派遣候補者募集チラシ作成配布

全国のカトリック福祉施設、幼稚園、教会等に向け、派遣候補者募集チラシ(カラー、A4版)を作成し配布した。

新しい一步を踏み出そう！ 15,000部作成(2017年8月)

## (4)新聞・雑誌記事掲載

きずな(日本カトリック海外宣教者を支援する会発行)

No.139(2017年6月1日) 担当司祭が変わりました(井手司)

急な一時帰国と就労ビザ申請(深堀夢衣)

No.140(2017年9月1日) ソーラーパネルおかげで快適に(井手司)

栄養プログラムの検討を重ねて(深堀夢衣)

No.142(2017年12月1日) わたしの任期はあと5か月に(深堀夢衣)

No.143(2018年3月1日) 今年は寒いカンボジア(井手司)

日本食を伝えよう！(深堀夢衣)

## 11. 報告会・説明会・講演

活動報告会を次のとおり行った。(一部再掲)

また、本年度も小教区でのミサ後すぐの時間帯を利用し、短い時間で活動紹介とラチャナ販売を同時に行うミニ報告会を行った。

### カンボジア報告会

2017年5月27日・28日	福岡教区カトリック久留米教会	井手司
2017年6月6日	広島県福山暁の星女子中学、高校(宗教科)	井手司
2017年6月8日	イエスのカリタス修道女会本部	井手司
2017年6月10日	幼きイエス会	井手司
2017年6月11日	横浜教区カトリック藤沢教会	井手司
2017年6月18日	カトリック原町教会	井手司
2017年6月23日	カトリック大分教会	井手司
2017年6月25日	カトリック宮崎教会	井手司
2017年10月1日	カトリック菊名教会	浅野美幸
2017年10月3日	ILBS-国際福祉協会 カンボジア活動報告	漆原比呂志
2017年10月12日	芝の会 報告	浅野美幸、漆原比呂志
2017年10月14日	大阪教区カトリック夙川教会	細川昭雄、漆原比呂志

#### JLMM活動紹介とチャナ販売

2017年 9月 17日	東京教区カトリック徳田教会
2017年 10月 14日	大阪教区カトリック夙川教会 (報告会と同時開催)
2018年 3月 4日	横浜教区カトリック片瀬教会

#### 派遣募集説明会(再掲)

2017年9月16日	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院	事務局
------------	----------------	-----

#### 講演その他

2017年6月7日	芝浦工業大学 生命倫理 講義	漆原比呂志
2017年6月8日	大船カトリック幼稚園	漆原比呂志
2017年7月27日	新潟県立看護大学	漆原比呂志
2017年9月24日	京都教区 望洋庵シンポジウム講演	漆原比呂志
2017年10月4日	サレジオ中学校 授業	漆原比呂志
2017年10月11日	芝浦工业大学生命倫理講義	浅野美幸
2017年10月11日	星美小学校 授業	漆原比呂志
2017年10月19日	鎌倉市立第一中学校 講演	漆原比呂志
2017年11月9日	香里ヌヴェール学院 授業	松村繁彦理事
2018年2月9日	横須賀市立衣笠小学校 講演	漆原比呂志

## 12. 主催イベント

2017年度は主催イベントを開催しなかった。

## 13. バザー・イベント等への参加・企画協力

2017年7月26日	真生会館「音楽と祈りの集い」 サックスコンサート企画
------------	----------------------------

2017年9月30日～10月1日	グローバルフェスタ2017 (出展者説明会:8月3日、準備会:9月1日)
2017年9月23日	カトリック医療関連学生セミナー パネル展示 (小林代表理事)
2017年10月15日	大阪教区「国際協力の日」ブース出展
2017年10月22日	東京教区三軒茶屋教会 バザー出店
2017年10月29日	京都教区大津教会 バザー出店
2017年12月3日	Bit主催 チャリティ・コンサート 横浜教区カトリック由比ガ浜教会

## 14. ファンドレイジング

### 味の素株式会社「食と健康」プロジェクト

新案件コンサルテーション	2017年7月4日
担当者ミーティング	2017年10月5日
栄養改善 NGO ミーティング	2018年3月20日

### 芝の会

NPO 法人を解散した「芝の会」のもとメンバーと派遣者、事務局との間で現地での教育支援に関して情報共有した。 (2017年10月12日、芝の会元事務所にて)

### 国際福祉協会(ILBS)

カンボジア・プノンペンの屋台貸出しプロジェクトの屋台の新調や備品の整備などのための支援があった。

2017年6月13日、ロシア大使館にて贈呈式があり目録を受け取った。

2017年10月3日にはブラジル大使館にて ILBS メンバーに向けて活動報告を行った。



クレープ販売の屋台を新調



ハッピーアイス販売の備品を整備

## 15. スタディツアーア

一般公募及び諸団体・学校からの依頼に応じ、スタディツアーアの企画を行った。

### 上智福岡高等学校 スタディツアーア

2017年7月29日～8月5日 高校2年生14名と教職員1名が参加

行程:プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

### 清泉女子大学 ベトナム ボランティアスタディツアーア

2017年8月6日～8月11日 参加者8名と担当教授1名が参加

行程:ホーチミン市

(募集説明会:2017年6月21日、事前学習会:7月20日、次回企画打ち合わせ:10月31日、報告会:12月5日)

### JLMM夏のカンボジア スタディツアーア (一般公募)

2017年8月22日～8月30日 参加者6名

行程:プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

### JLMM春のカンボジア スタディツアーア (一般公募)

2018年2月24日～3月3日 参加者11名

行程:プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

(ピースインツアーアとの企画打ち合わせ:2017年10月24日、

SIAとの打ち合わせ:2018年1月26日、2月14日)



清泉女子大ベトナム ボランティアスタディツアーア



上智福岡高校スタディツアーア

### スタディツアーア報告会への参加

2017年5月31日 清泉女子大学カンボジアボランティアスタディツアーア報告会 (清泉女子大学)

## 16. 会議

### (1) 総会

開催回	開催日	会場	議題
定時	2017年 5月31日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員の選任について</li> <li>・2016年度事業報告(案)及び収支決算(案)について</li> </ul>

### (2) 理事会

開催回	開催日	会場	議題
第1回	2017年 5月31日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・2016年度第4回理事会議事録確認と署名</li> <li>・総会付議事項について</li> <li>　　役員の選任について</li> <li>　　2016年度事業報告(案)及び収支決算(案)について</li> <li>・2017年事業計画(案)並びに収支予算(案)について</li> <li>・ゾシエイト派遣について</li> <li>・団体名称について</li> </ul>
臨時	2017年 5月31日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正副代表理事の選任について</li> </ul>
第2回	2017年 9月11日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・団体名称検討について進捗報告</li> <li>・2017年度第1回理事会議事録確認と署名</li> <li>・任期延長について(深堀夢衣)</li> <li>・2017年度派遣について</li> <li>・2018年度派遣候補者募集について</li> </ul>
第3回	2017年 12月11日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・来年度派遣候補者研修について</li> <li>・2017年度第2回理事会議事録の確認と署名</li> <li>・団体名称について</li> </ul>
第4回	2018年 3月5日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・研修所移転について</li> <li>・来年度研修について</li> <li>・2017年度第3回理事会議事録の確認と署名</li> <li>・任期延長申請(浅野美幸・井手司)</li> <li>・2017年度の予定について</li> <li>・団体名称について</li> </ul>

### (3)団体名称検討ワーキンググループ

当会の正式名称は、「一般社団法人 日本カトリック信徒宣教者会」であるが、この名称に含まれる「宣教」という表現が、宗教活動を行う団体、布教する団体としばしば誤解される要因となり、NGO 連携や助成金申請に際し支障をきたしている。

そこで、現在の組織の実態を適確に表現する名称の検討を行うこととなった。名称検討は、派遣者 OBOG、理事、事務局など関係者によりワーキンググループを構成し、2017年1月25日に第1回ミーティングを開催、2017年度も継続的に検討を行った。

メンバー：森田隆、小林由加、高橋真也、浜崎眞実、渡邊怜子、漆原比呂志、辻明美、金山重之

開催日： 2017年4月4日、4月24日、5月22日、

## 17. 理事・顧問司教

役員構成は以下のとおりである。

理事の任期は2017年5月29日から2018年度最終総会まで、監事の任期は2015年5月29日から2018年度最終総会までとなる。

顧問司教は諏訪榮治郎高松教区司教である。

	役 職	氏 名	所 属 等	備 考
1	代表理事	小林 誠	法務省多摩少年院(医師)	
2	理事	浜崎 真実	カトリック横須賀三笠教会主任司祭	指導司祭
3	理事	實藤 恵利子	ケア・インターナショナル / JLMM・OG	
4	理事	松村 繁彦	カトリック大阪大司教区事務局長	
5	理事	高橋 瞳子	幼きイエス会	研修担当者
6	理事	瀬戸 高志	レデンプトール修道会日本準管区長	
8	理事	渡邊 怜子	日本カトリック信徒宣教者会・OG	
9	理事	漆原 比呂志	JLMM 事務局 / OB	事務局長
1	監事	徳 修	税理士/心のともしび責任役員	
2	監事	品田 典子	日本カトリック学校連合会	

品田監事による活動の監査を実施した。

2018年5月28日

徳監事による会計監査を実施した。

2018年5月23日

## **18. 加盟団体等**

2018年3月31日現在、当会が所属する団体等は次のとおりである。

日本カトリック司教協議会 公認団体（2002年5月9日加盟）

特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)正会員（2009年10月23日承認）

## 貸 借 対 照 表

一般社団法人 日本カトリック信徒宣教者会

2018年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
預金	7,773,320	6,467,524	1,305,796
前払費用	1,765	1,125	640
流動資産合計	<b>7,775,085</b>	<b>6,468,649</b>	<b>1,306,436</b>
2 固定資産			
什器備品	168,040	226,071	△ 58,031
電話加入権	74,984	74,984	0
固定資産合計	<b>243,024</b>	<b>301,055</b>	<b>△ 58,031</b>
資産合計	<b>8,018,109</b>	<b>6,769,704</b>	<b>1,248,405</b>
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金		0	0
預り金	286,170	232,665	53,505
流動負債合計	<b>286,170</b>	<b>232,665</b>	<b>53,505</b>
負債合計	<b>286,170</b>	<b>232,665</b>	<b>53,505</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
正味財産合計	<b>7,731,939</b>	<b>6,537,039</b>	<b>1,194,900</b>
負債及び正味財産合計	<b>8,018,109</b>	<b>6,769,704</b>	<b>1,248,405</b>

## 正味財産増減計算書

一般社団法人 日本カトリック信徒宣教者会

2017年4月1日から2018年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	1,577,000	1,524,000	53,000
受取寄付金	15,205,395	14,275,800	929,595
受取助成金等	9,872,000	12,546,800	△ 2,674,800
受取利息	265	213	52
経常収益計	26,654,660	28,346,813	△ 1,692,153
(2) 経常費用			
事業費			
研修費	2,370,632	304,201	2,066,431
派遣活動費	9,470,313	13,004,326	△ 3,534,013
調査研究費	4,473,614	4,680,565	△ 206,951
広報活動費	2,440,372	2,465,728	△ 25,356
行事費	312,391	466,412	△ 154,021
事業費計	19,067,322	20,921,232	△ 1,853,910
管理費			
人件費	4,860,507	4,971,870	△ 111,363
事務管理費	1,473,900	1,601,872	△ 127,972
減価償却費	58,031	40,011	
管理費計	6,392,438	6,613,753	△ 239,335
経常費用計	25,459,760	27,534,985	△ 2,075,225
当期経常増減額	1,194,900	811,828	383,072
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	1	△ 1
経常外費用計	0	1	△ 1
当期経常外増減額	0	△ 1	1
当期正味財産増減額	1,194,900	811,827	
正味財産期首残高	6,537,039	5,725,212	
正味財産期末残高	7,731,939	6,537,039	

## 計算書類に対する注記

### 1 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却について  
有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。
- (2) 資金の範囲について  
資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は2に記載のとおりである。

2 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高
預 金	6,467,524	7,773,320
前払費用	1,125	1,765
合計	6,468,649	7,775,085
未払金	0	0
預り金	232,665	286,170
合計	232,665	286,170
次期繰越収支差額	6,235,984	7,488,915

3 有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	347,502	179,462	168,040
合計	347,502	179,462	168,040

## 財産目録

2018年3月31日現在

一般社団法人日本カトリック信徒宣教者会  
(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
預 金	普通預金 三菱東京UFJ銀行六本木支店 三菱東京UFJ銀行六本木支店 郵便振替 定期預金 三菱東京UFJ銀行六本木支店	運転資金として 寄付金等受け入れとして 寄付金等受け入れとして 労働保険料	564,455 1,435,094 2,962,107 2,811,664 1,765
前払費用			
流動資産合計			7,775,085
(固定資産)			
什器備品	パソコン2台	事務局にて使用	168,040
電話加入権	事務局FAX 03-5414-0991		74,984
固定資産合計			243,024
資産合計			8,018,109
(流動負債)			
預り金	社会保険料		286,170
流動負債合計			286,170
負債合計			286,170
正味財産			7,731,939

## 収支計算書

一般社団法人 日本カトリック信徒宣教者会  
自2017年4月1日 至2018年3月31日

### 収入の部

(単位:円)

科 目 名		17年度予算A	17年度決算B	増減額B-A	増減率B/A	備 考
収入の部	受取会費	1,500,000	1,577,000	77,000	105.1%	
	受取寄付金	17,000,000	15,205,395	△ 1,794,605	89.4%	
	受取助成金等	12,872,000	9,872,000	△ 3,000,000	76.7%	芝の会、味の素
	受取利息	1,000	265	△ 735	26.5%	
	雑収入	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
	当年度収入合計(A)	31,383,000	26,654,660	△ 4,728,340	84.9%	
収入合計 (B)		31,383,000	26,654,660	△ 4,728,340	84.9%	

### 支出の部

科 目 名		17年度予算A	17年度決算B	増減額B-A	増減率B/A	備 考
支出の部	1. 人件費 (D)	5,169,000	4,860,507	△ 308,493	94.0%	
	給料手当	4,150,000	3,980,000	△ 170,000	95.9%	1名分
	通勤手当	302,000	301,280	△ 720	99.8%	
	退職金	0	0	0	0	
	法定福利費	710,000	572,189	△ 137,811	80.6%	
	福利厚生費	7,000	7,038	38	100.5%	健康診断
	2. 事務運営費 (E)	1,727,000	1,531,931	△ 195,069	88.7%	
	会議会場費	5,000	0	△ 5,000	0.0%	
	会議食事代	5,000	2,729	△ 2,271	54.6%	
	会議旅費交通費	70,000	0	△ 70,000	0.0%	
	電話料	200,000	168,104	△ 31,896	84.1%	
	郵便切手送料	80,000	49,255	△ 30,745	61.6%	
	印刷コピー代	50,000	47,207	△ 2,793	94.4%	
	備品費	0	0	0	0	
	旅費交通費	30,000	32,250	2,250	107.5%	
	消耗品費	50,000	34,965	△ 15,035	69.9%	
	リース料	852,000	851,484	△ 516	99.9%	
	支払手数料	120,000	89,589	△ 30,411	74.7%	振替手数料他
	諸会費	40,000	44,050	4,050	110.1%	司教協議会公認団体, JANIC
	水道光熱費	80,000	74,267	△ 5,733	92.8%	
	租税公課	70,000	80,000	10,000	114.3%	法人都民税他
	減価償却費	45,000	58,031	13,031	129.0%	
	慶弔費	20,000	0	△ 20,000	0.0%	
	雑費	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
運営費支出合計 (F)=(D)+(E)		6,896,000	6,392,438	△ 503,562	92.7%	
活動費	研修費	2,101,000	2,370,632	269,632	112.8%	
	派遣活動費	16,502,000	9,470,313	△ 7,031,687	57.4%	職員1名分含む
	調査研究費	5,009,000	4,473,614	△ 535,386	89.3%	職員1名分含む
	広報活動費	2,640,000	2,440,372	△ 199,628	92.4%	
	行事費	356,000	312,391	△ 43,609	87.8%	報告会等
活動費支出合計 (G)		26,608,000	19,067,322	△ 7,540,678	71.7%	
経常費用計 (H)=(F)+(G)		33,504,000	25,459,760	△ 8,044,240	76.0%	
	その他の繰入金支出	0	0	0	0	
	財務支出合計 (I)	0	0	0	0	
	当年度支出合計 (J)=(H)+(I)	33,504,000	25,459,760	△ 8,044,240	76.0%	
	当期収支差額 (K)=(A)-(J)	△ 2,121,000	1,194,900	3,315,900	-56.3%	
	前年度繰越金 (L)	4,914,000	6,294,015			
次期繰越収支差額 (M)=(K)+(L)		2,793,000	7,488,915	3,315,900	268.1%	

## 監査意見書

一般社団法人日本カトリック信徒宣教者会定款第27条の規定に基づき、2017年度における理事の職務執行状況、事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の通常理事会議事録、活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

2018年 5月23日

一般社団法人日本カトリック信徒宣教者会

監 事 (財務)

徳 修

2018年 5月28日

一般社団法人日本カトリック信徒宣教者会

監 事 (事業)

品 田 典 子